

カレンダー

令和5年

1月元旦～3日	……	新年祈祷法要
2月12日	……	松岩寺開山喜庵西堂和尚每歳忌（開山和尚滅後四二五年）
15日	……	涅槃会
3月	……	春彼岸法要
4月8日	……	釈尊降誕絵（花まつり）
6月下旬	……	本山妙心寺新亡供養
8月1日～3日	……	施餓鬼受付
13日……盆迎え	15日……施餓鬼法要	16日……盆送り
9月 秋彼岸	……	秋彼岸法要
12月8日	……	成道会

○定例行事・催し物の紹介○

【坐禅会】 毎週日曜日 朝6時～7時

【写経】 第4土曜

午後1時30分～4時30分まで（8月は盆行事のため休会）

教養講座

もったいないをかたちに【開催中】

【金つぎ教室】 講師 花輪滋實

第4土曜日 午後1時半～午後4時半

思いをかたちに【休会中】

【仏像を彫る会】

健康は声から【休会中】

【声をだして元気になる】（ボイストレーニング）

霊園管理費納付のお願いは、春彼岸のご案内と一緒にお届けします



例年、この欄では年中行事や寺主催の旅行へのお誘いをしているのですが今はちょっと……。そこで、境内の北、旧中山道に面したところにある、伝道掲示板の令和5年正月に掲載するものを紹介します。



伝道掲示板には1ヶ月にひとつの言葉を紹介しています。經典の引用であったり、詩や小説のなかの言葉であったりします。道ばたの1メートル四方の掲示板ではお伝えできない、ことばの周辺は松岩寺ホームページのblogに載せています。



写真 千田完治

一人では何もできない。しかし、その一人が始めなければ、何もできない。 松原泰道

新年の言葉にしたのは、仏教書としては空前のベストセラーを記録した『般若心経入門』（祥伝社）の著者・松原泰道師（1907～2009）の言葉です。出典はというと、正月早々孫引きです。『Xinto—神の道—第2号』（日本の神道文化研究会）という雑誌からです。神道学者の三橋健氏が奈良康明師（1929～2017）にインタビューした記事が載っていました。その記事の結びで奈良師が「講演などの締めに使わせていただいているのですが、故松原泰道先生から教えていただいた言葉があります。今回も締めにご紹介させていただきます」と語り、「一人では何も出来ない」の言葉を教えてください。奈良師は著名な仏教学者であり、永平寺の重役も歴任された、曹洞宗を代表する学僧が、異なる臨済宗の学徳のことばに心酔する。それを神道学者がインタビューするという、面白いけれど複雑な対話です。神道学者の三橋氏が次の仏典を紹介します。「怨みに報いるのに怨みをもってすれば怨みは息まない。怨みを捨てることによって怨みは息む（『ダンマパダ』五）。これに対して仏教学者の奈良師が次の様に応じます。

——『ダンマパダ』のこの詩とは、学生時代に出会っているのですが、その時、腹が立って、お釈迦さんに文句を言った記憶があるんです。その頃、私はタバコを吸ってしまっていて、それを止めたくてしようがない時期でした。「怨みに報いるのに怨みをもってすれば怨みは息まない」、怨みの連鎖的な活動があることは、よくわかる。しかしね、「怨みを捨てることによって怨みは息む」、お釈迦さん、これはなんですか！ と。これでは「煙草を吸わなければ、禁煙できる」というのと、同じじゃありませんか！ そんなことわかっているんです。どうやったら吸わなくてすむようになるか、ということを教えてくれなかったら困るじゃないですか、とね。この詩を読みながら、「もっと親切な教え方はないんですか」と文句をつぶやいていました。ところがだんだんと勉強してまいりまして、次の言葉に出会います。「如来は教えを説くのみ」「実践するのはおまえたちだ」（『ダンマパダ』276）——

インタビューはまだまだ続くのですが、残念ながらこの対話の4か月後に奈良師は逝去されてしまいます。しかし、死を数ヶ月前にしたとは思えない、論理明晰な応答です。

さて、あたらしい年にたてる誓願。身の丈にあったのなんていわずに、どうせだったら、大きいのをいきませんか。だって、一人では何も出来ないけれど、一人が始めなければ、何もできないのだから。